



GERMAN  
TUNER  
REPORT

# Lorinser

Sportservice Lorinser GmbH  
Alte Bundesstr. 45  
D-71332 Waiblingen  
www.sportservice.lorinser.com  
+49 (0) 7151 136 2410



## 老舗メルセデスチューナーの 新たなる挑戦

長きに渡って個性的なチューンドメルセデスを世に放ってきたロリンザー  
彼らの最新作であるEクラスはそれまでとは違ったアプローチが試みられていた  
ドイツ・ヴァイブリンゲンに赴き、今とこれからのスタンスを取材。  
新作GLSとともにロリンザーの進む道を紐解いてみた

PHOTO & REPORT ● Keisuke KUMASAKI (af imp.)  
SPECIAL THANKS ● MRQ, Händels GmbH

ドイツの歴史を  
人知れず守るコッ  
ーブ・タイムラ  
生きた車。コッ  
川アにてロキも  
生きた車。コッ  
セキが守り、博  
として伝えている





## Lorinser

メルセデス・ベンツのSUVの頂点に君臨するのは、やはりSクラスである。その一方で、このところ矢張りラインアップを拡充したSUVシリーズでは、頂点はもちろんこのGLS。ネーミングの統一によってその名はGLSからGLSへと変更されたが、その堂々たる体躯は健在。SUVにおけるSクラス、あらゆる条件を兼ね備えるメルセデスのもうひとつの旗艦。

そんなGLSを素材にロリンザーが与えたのは、なんとSクラス用の純正フロントグリルだ。W222型Sクラスのグリルは、細身のルーバーが走るクラシカルなもの。GLSの純正グリルよりも大きく、設置もSクラスより角度を起してあるため、そのインパクトは絶大だ。エレガントかつ迫力のあるフェイスは、SUVのSクラスに相応しい。

そんなフロントグリルにあわせて、フロントバンパーは左右に巨大な開口部が備わり、ワイド感を強調。ボトムラインはインテークに合わせてロールアップしており、スポーティさをプラスしている。

そしてリアもまた個性的だ。ルーファからDピラーまで覆う大型のリアスポイラーと、菱形のビルトインマフラーを備えたバンパーという構成。AMGモデルとは違ったアプローチのデザインが与えられたGLS。ロリンザーらしいアイデアが活きた個性的なスタイリングは、SUVにおいてもどこかエレガントであり、力強さと美しさを併せもっている。

## Lorinser GLS 350d 4MATIC

フルサイズの堂々たる体躯を  
エレガントスポーツに仕立てる

**SPEC**  
 4x4駆動  
 Front bumper w/ 1st stainless grill  
 Rear bumper  
 Front fender set  
 Tailgate (be) arch set  
 Exhaust  
 Sport exhaust with double tail pipe  
 2017年モデル  
 Lorinser Diesel module  
 500ps/700Nm  
 Wheel  
 RS9 11x21  
 RS9 11x22  
 Exhaust  
 1700000円 / 2700000円 / 3100000円 / 3500000円



↑W222用グリルの移植で、顔だけ見ればSクラスに見える。ボンネットが延長され、押し出しは強まっているが、クラシカルなルーバーなので、エレガントさを感じさせる。



↑ピラーまで延長されたルーファスポイラーと大ぶりなバンパーで構成されるリア。ビルトインタイプのエキゾーストもロリンザーらしいディテール。



↑パフォーマンスECUにより300ps/700Nmに引き上げられた350d。応酬トルクで2トンを遙かに跳える団体を乗りこえる。ロードアシストはブルーのイルミネーション。フロアマットとともにオーナーを迎えてくれる。



↑右は新作のRS10は純正の21インチ。ロリンザー555の5スポークの鉄製で、ヒマラヤグレーポリッシュというバイカラー仕立てが美しい。左はRS9の22インチを履く。





**SPEC**  
*Aerodynamics*  
 Front lip carbon  
 Rear bumper add-on part carbon  
 Side skirt  
 Rear wing carbon  
 Side mirror trim  
*Exhaust*  
 Sport exhaust with double tail pipe  
*Performance*  
 Lorinser Performance Upgrade E43  
 443ps/620Nm  
 Wheel  
 RS11 21x23  
 Mirror  
 Pedal set / Floor mat / Illuminated door sills

## Lorinser E43



ードアシルはGLS規格にブルーのイルルで Lorinserの文字が浮かび上がる。↑控えめなサイズのテールエンド。天面にはもちろんプランフロコが彫刻されている



↑ダイナミックな造形となった新作ホイールRS11。ロリンサー伝統の6スポークの鍛造系と見ることもできる。20インチ及び21インチをラインアップ。標準車は21インチを装備

1.ホイールベースの半分より後半にかけてカーナード状のスカートが覆われる。サイドカーレルとの相性もよい。2.3ピース式のフロントリップもカーボン製。シンプルな造形でジュエトルなスタイルを演出する。3.純正バンパーにアドオンするカタチのリアディフューザー。4.本出しマフラーが顔を覗かせる。4.小振りなトランクスポイラーは美しい曲線を描き、エレガントなイメージを生む



もちろんキャラクターの強さを望む声もあるというから、ロリンサーらしいデザインが施されたバージョン2の発表にも期待したいところだ。

大幅に進化した新型Eクラスは、自動運転に向けて多くの安全機能が追加されている。ロリンサーはメルセデスチューナーであるからこそ、純正と同等の安全性能を確保した上で、走行性能を引き上げる必要がある。公認チューナーとして、メルセデスよりも安全性でメルセデスよりも劣ってはいけないという不文律を自らに課している。

だからこそその選択だったのだろう。バンパーレールに3個ものセンサーが備わる新型Eクラスでは、ロリンサーが得意としてきたフルバンパーによる激着なエアロロスタイリングではなく、小さなリップが与えられた。

AMGスタイリングパッケージに対応するポトムラインパーツにはカーボンがあしらわれているが、カナードやディフューザーの造形自体は控えめ。ここ数年ロリンサーが発表してきた強い個性を放つデザインとは一線を画した、アダルトなスポーツテイストを表現してみせた。

やもすれば、従来のロリンサーファンからすると物足りなさを感じるかもしれない。しかし普段使いのビジネスサルーンの要素が強いEクラスの立ち位置からすると、こんなアプローチはむしろ歓迎すべきであろう。声高にチューニングを謳うのではなく、オナーの、ロリンサーを所有しているという満足度に訴えかけるパーソナルな指向性というわけ。

## カーボンによるディテールアップで大人のスポーツスタイルを表現



Lorinser

総本山の城下町を拠点に  
伝統を連綿と受け継いでいく



↑ロリンサークラシックと称してオールドタイマーやヤングタイマーのレストアを手掛ける。軽度のいいタテ日ベンツを始め、名車がズラリ



↑スポーツサービス・ロリンサーは巨大な社庫の一角に、新車への換装はもちろん中古車ベースでの製作やコンプリートカーも販売している



↑圧倒的な大きさのショールームを誇るメルセデスディーラー、オートハウス・ロリンサー。敷地はさらに広大で、その規模に圧倒される



↑13代目の社長であるマルクス・ロリンサー氏。2006年より代表の座につき、ブランドを導いている。巨大メルセデスディーラーの長でもある



↓チカカルマネージャーであるミヒャエル・ペルトンツ氏。ロリンサーが生み出すチューニングモデルはすべて彼の手によるものとなる



↑エクスポートマネージャーのハチコイテイス氏。マルクス社長の片腕として長年に渡って世界のロリンサーディーラーとコンタクトしている

GERMAN  
TUNER  
REPORT  
**Lorinser**

まさにメルセデスの城下町ともいえる土地に、ロリンサーは存在する。その広大な敷地には、隅から隅までメ

メルセデス・ベンツと共に  
歩んできた80余年の歴史

メルセデス・ベンツの総本山であるシュトゥットガルトからクルマで約15分、ヴァイプリングゲンという街にロリンサーは屋を構えている。さらに東に進めば、内燃機関と自動車開発の父であるゴットフリート・W・ダイムラーの生地、シヨルンドルフがあり、さらに彼がマイバツハとともに世界初の軽量高速車用エンジンを組み上げたカンシュタットとも近い。

メルセデスの新車や中古車、商用車までがずらりと並んでいる。そう、我々が目にするロリンサーの母体はご存じの通り巨大なメルセデスディーラー、オートハウス・ロリンサーであり、「スポーツサービス・ロリンサー」はチューニングを受け持つ別会社という立ち位置だ。メルセデスとの関係性は地理的なものだけではない。歴史を溯れば1930年にアーヴィン・ロリンサー氏が整備工場を設立したときからメルセデスとロリンサーの関係は始まっており、3代目となる現社長マルクス氏に至るまで、長きに渡って良好なパートナーシップを築いている。近年人気の高まっているクラシックメルセデスにも力を入れ始めているようで、本社の地階にはヤングタイマーやオールドタイマーのメルセデスが美しくレストアされて並んでいた。現代のメルセデスとは違った魅力をもつモデルは、ロリンサーの長い歴史を象徴するかのようだ。新たなプロジェクトもすでに始動しているという。伝統あるメルセデスチューナーという称号に甘んじることなく独自の道を歩み続けるロリンサー。次回作も楽しみだ。